

緑風観光バス労働組合

執行委員長

田畑

勝弘さん(右)

書記長

笹内

功さん(左)



組合事務所前の車庫で。1月18日の「市労組裁判弾丸バス」では緑風観光バス労組の組合員がハンドルをにぎりました

「私たちが運ぶのは安全 そして、命なのです」

大阪自治労連には、公共サービスを担う民間の労働組合が加入しています。今回は、その中のひとつ、緑風観光バス労働組合を訪ねました。

緑風観光バス労組の組合事務所は、モノレールの終点「彩都西」が最寄り駅。取材当日は、笹内書記長が駅まで迎えに来てくれました。笹内書記長の車はマニュアル車。「妻がマニュアル車が好きで、ずいぶん

長く乗っています。今なかなか軽自動車でマニュアルがないもので…」と、運転手としてのこだわりが見られました。

ツアーバスで死亡事故続発 原因は「小泉構造改革」に

組合事務所、田畑委員長と笹内書記長からバスを運行する中での思いを聞くことができました。

1月の軽井沢のスキーバス転落事故について田畑委員長は「小泉政権で規制緩和がどんどん進み、事業者と運転手の質が低下した。今、バス会社はバスという乗り物を提供しているだけで、運転手の健康や働き方は放置しています。安全を売ってはいない」、そして「私たちバス運行者は、人を運ぶ仕事。大切な命を預かってるんだという気持ちを持つことが大事です。形式的に規則を守るだけではなく、こんな気持ちで仕事に臨んでいたら軽井沢の事故は起こらなかったのではないかととても残念です」と強い口調で語ります。

笹内書記長からは「規制緩和で白バス業者がたくさん参入しました。そういうところは労働組合がありませんから、労働者へのしわ寄せがこの事故を起こしたかもしれませぬ」

とも。

二人の話から、労働組合の存在は「会社にはっきりものが言える」とはもちろんのこと、「公共サービスの担い手としての意識」の継承していく役割も担っていると、改めて強く感じました。

「利用者の笑顔が バス運転手の喜び」

大阪自治労連でバス労働者の組合は、緑風観光バス労組だけ。「自治労連の大会などでは、話がかみ合わない部分も感じるけれども、非正規労働者の雇い止めなどを聞くと、労働者として思いは同じだと感じますね」と、田畑委員長は共感する思いを語ります。

二人と話す中で出てきた「利用者の笑顔が、運転手の喜び」との言葉は、自治労連の原点「地域住民の繁栄なくして自治体労働者の真の幸福はない」に通じるもの。公務・公共サービスで働く仲間の思いは共通していることに確信をもちました。

大阪自治労連の仲間へのメッセージとして「組合のバスレクや職場旅行などがあれば、安全・安心の緑風観光バスにもお声をかけてくだされば」とのことです。

労働組合があるから守られるものがたくさんある

賃上げ！くらし守れ！ 賃上げ！くらし守れ！ 共同を大きく



【賃金底上げのためにも実施せよ】と大阪府へ請願行動

1月20日には、「怒りの労働者総行動」がとりくまれ、賃上げで地域活性化、労働者の権利侵害を許さない当たり前の社会をつくっていこうと、地域での宣伝行動、経済団体や国・自治体への要請や懇談を行いました。

大阪自治労連は引き続き、2016春闘で、賃上げ世論を大きくさせ、非正規を含めすべての労働者の賃上げ、雇用の安定で、大阪経済を回復させていくために奮闘していきます。同時にたたかいを大きくすすめるために、仲間を増やす組織の拡大にも全力でとりくんでいきます。

2016春闘を 意気高くすすめよう



「大企業は社会的責任を果たせし」「賃上げ・くらし守れ」と府民にアピール

自治労連
おおさか
自治体の仲間

発行：大阪自治労連(大阪自治体労働組合総連合)

2016年2月15日 No.320

〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目13番15号
大阪ラウンジ会館4階 ☎06-6354-7201 FAX06-6354-7206
E-mail:nadado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp